

飛鳥・藤原地域出土 金属製品の調査

—坂田寺SK160出土銭—

はじめに 奈良県明日香村に所在する坂田寺跡は、鞍作氏の氏寺であり、古代の代表的な尼寺である。奈良文化財研究所による1986年の第5次調査では、径2m前後、深さ0.2~0.3mほどの土坑SK160から、散布したような状況で銭貨や玉類等が出土し、削平された8世紀後半の基壇建物にともなう地鎮と考えられた。概要は『藤原概報16』に報告されたが、遺物の詳細な調査はながらくおこなわれていなかった。近年、銭貨とガラス玉類等について報告されたが(『紀要2011』)、重なって鋳着した銅銭は銭文不明であった。このたび埋蔵文化財センター保存科学研究室の協力により、これら鋳着している個体についてX線CTスキャナーによる1mmごとのスライス画像を撮影し、銭文を特定することができた。撮影は辻本与志一による。本稿ではそれを踏まえて若干の整理と考察をする。

SK160出土銭 銅銭は土坑の中央付近に散在していた。一部の表面に纖維痕跡や平織の組織が残るので、もとは紐を通して縉銭としたり、布で包装していた可能性がある。概報は銅銭を291点とするが、詳細なリストではなく、年月を経るうちに記録との対応が不明確なもの、あきらかに入れ替わっているもの等が生じていた。遺構図の遺物取り上げ記録と実物で枚数が違うものもあり、概報の数値をどのように算出したかも不明である。今回できる限り復元したが、一部不明確な部分が残った。現状で銅銭は293点あるが、破片の接合関係を精査すると多少変わるかもしれない。また、今回47以降の番号を付したもののは本来の遺物番号が不明の個体であり、遺物番号では1A、1B、1R-上、1T、36のうち10点、43が実物不明である。これらが相互に対応するのであろうが、現状では決めがたい。

今回の調査により判明した、SK160出土銭の内訳を表2に示す。銭種は開元通寶1点、和同開珎213点、萬年通寶33点、神功開寶45点、不明1点である。不明1点(46-6)は小片で、他と接合する可能性がある。配列は同種の銭貨がまとまる傾向があるように見える。また、銭文にはバリエーションがある。これらについての詳細は他日を期したい。

考 察 銭種構成から地鎮の年代を検討すると、神功開寶より新しい銭貨を含まないので、神功開寶の初鑄(765年)以降、隆平永寶の初鑄(796年)以前に集められた銭貨群と判断でき、地鎮がおこなわれた年代もこの範疇で考えるのが妥当である。この所見は木村・降幡論文と変わらない。

注目されるのは唐の開元通寶が1点だけ含まれていることである。古代の地鎮埋納銭の大半は国産の銭貨だけで構成されるが、開元通寶を含む事例がわずかにある。管見の範囲では、興福寺中金堂鎮壇具が開元通寶1点と和同開珎145点(埋蔵物録の甲印134点と丙印11点の計)および金銀箔、玉類等で構成される。靈安寺塔跡の心礎周辺では開元通寶1点、萬年通寶1点、隆平永寶11点と銅鏡や銅鏡などが出土した。SK160出土銭を含め、これらは国産の銭貨を主としつつ、1点だけ開元通寶を入れる点が共通している。意図して唐銭を1点だけ入れた可能性が高いと考える。

なお、他の開元通寶を含む事例として、法華寺金堂から開元通寶3点、和同開珎20余点、萬年通寶40余点、神功開寶140~150点、金銀板等が出土したという、柏木貨一郎による記録がある。しかし時枝務の研究によれば金堂ではなく東西両塔基壇出土であり、柏木論文以外の史料に開元通寶の記録がなく、遺物も確認できないので、検討しがたい。また、薬師寺西塔では後世の置土から和同開珎と開元通寶1点が出土しているが、層位からして地鎮とは確定できない。

おわりに SK160出土銭は、坂田寺の実態を示すとともに、古代の地鎮儀礼を考究する上でも欠かせない重要な資料である。『紀要2011』を契機にいくつかの展示へ出陳されたのち、当時筆者らが在籍していた都城発掘調査部考古第一研究室では、安定した保存と活用のために保存処理作業を開始した。2013年に筆者が異動した後、ほどなく作業は中断されたため、保存処理が終了したのは92点にとどまる。現在、これらは飛鳥資料館で常設展示し、好評を得ている。その他の個体は一括遺物でありながら未処理のまま残されており、作業の完遂と詳細な調査報告は今後の課題である。

なお、本稿にはJSPS科研費JP15K03002、佛教美術協会助成金の成果の一部を含む。

(石橋茂登／飛鳥資料館)

表2 坂田寺SK160出土錢貨一覧表（表裏は銹着したもの、または出土状況で相対的な向きが判明するもの）

参考文献

「坂田寺第5次調査」『藤原概報16』、1986。

柏木賀一郎「上代板金考並京目田舎目説」『学芸志林』5、1879。
木村理恵・降幡順子「坂田寺SK160出土地鎮具」『奈文研紀要2011』。

木村理恵「奈文研ギャラリー(40)坂田寺出土地鎮具」『奈文研

ニュース | 48、2013。

¹⁰ 小島俊次「靈安寺塔跡の調査」『大和文化研究』9-3、1964。

時枝務「法華寺鎮壇具をめぐる二、三の問題」『日本古代史叢考』1994。

日本古文化研究所『薬師寺伽藍の研究』 1937。

藪中五百樹「興福寺金堂鎮壇具の検討」『瓦衣千年』、1999。